

10月5～7日の三日間、2年生理数科は関東地区研修を行いました。コロナ禍により、ここ2年間は中止を余儀無くされ、3年ぶりの実施となりました。

1日目は、国立科学博物館と上野周辺の見学を行い、夜は若手研究者との座談会を行いました。国立科学博物館は、「日本館」と「地球館」に膨大な数の展示物が工夫を凝らして展示しており、自然科学が好きな人が見て回ると何日もかかるところなので、見学時間2時間半では足りなかった生徒も少なからずいました。また、動物好きが集まり上野動物園にパンダなどの動物に会いに行くグループもありました。早めの夕食後は、次の日に見学に行く高エネルギー加速器研究機構で、素粒子や宇宙の秘密を解明すると期待されている未来の加速機 ILC (国際リニアコライダー) の若手研究者お二人との座談会を行いました。研究内容だけでなく研究者になるまでの経緯や研究にける思いについて伺うことができ、貴重な経験となりました。

2日目は、国の研究機関が集まっている筑波研究学園都市にバスで移動し、3つの研究施設等を見学しました。素粒子物理学の中心である高エネルギー加速器研究機構 (KEK)、世界的な材料開発・研究が行われている物質・材料研究機構 (NIMS)、我が国の宇宙開発を担う宇宙航空研究開発機構 (JAXA) のいずれも世界的にも有名な研究機関を自分の目で見て回ることができました。

3日目は、東京大学と東京スカイツリーでの研修でした。東京大学では4つの班に分かれて、地震研究所、工学部、医学部、薬学部の研究室を訪問しました。各研究室では、模擬授業などのレクチャーを受けたり、研究機器・設備・施設を見学したりしました。どの研修室でも東大の先生方に親切にいただきました。医学部では松江出身の先生からお話を伺いました。

東京スカイツリーは、天気が悪く展望室(350m)は雲の中で外は白一色の世界でしたが、時折、雲の切れ間から足元の隅田川を見ることができ、雲の動く速さとスカイツリーの高さを実感できました。また、グループ毎に計画し、プラネタリウムや水族館等の周辺施設の見学も行いました。

いずれの研修先も、それぞれの分野の聖地とも呼べる場所であり、その施設に入ったり、そこを仕事場とする研究者の方と直接交流したりでき、充実した研修旅行になりました。

